



多気町 実証実験レポート (サマリー)

背景・目的

本実証は、自動車工業会が掲げる「MSP構想」の実現に向けて自工会デジタルタスクフォースの活動によって企画された。MSP構想の実現によって共助型ライドシェアサービスを具現化させるための課題の抽出を行うことを目的とし、三重県多気町において、住民同士による「共助型ライドシェアサービス」の必要性を検証するために実施いたしました。

サービス概要

『好きな時間に、好きな場所から、好きな場所まで送ってもらえる、住民同士の助け合いによる共助型の交通システム』をコンセプトとした、多気町・松阪市・大台町を対象としたライドシェアサービスを、多気町役場や三重広域連携スーパーシティ推進協議会をはじめ、現地の一般社団法人ふるさと屋と協力し、多気町の住民向けにサービスを提供しました。



実証実験の評価

総 評

- ・ ドライバー(13名)、利用者(50名)ともに**100%が『非常に満足』『満足』の回答**となり、実証実験終了後にも評判を聞いた住民からサービス利用・継続に関する問い合わせが来る等、高い満足度で実験を終えた。
- ・ 乗車体験中の住民同士の交流、**サービスをきっかけに誘い合わせて出掛けることができた点が特に好評**이었다。
- ・ 本実証実験においては**高齢者がスマホやアプリの使用に慣れていない人が多く、利用のハードルが高かった**ため、利用開始に至るまでに人的サポートの必要性が確認された。
- ・ 地方都市・交通空白地帯における**デジタル地図・ナビゲーションの精度の低さは運用における課題**となった。安定的なサービス実行・継続においては、サービス側の精度向上が必須となる。
- ・ MSPによる**本人認証・トラストの需要はドライバー・利用者ともに高かった**が、特に若年層は本人認証以上の情報を安心感醸成の材料として求める傾向が可視化された。
- ・ 報告されたトラブルは急な予定変更による1件のみとなり、**大きなトラブルなく実証実験を完了**した。

利用者・ドライバーの声

利用者

A さん



参加前は不安の声が一定あったが、利用体験を通じて皆非常に満足していた。
子供たちが塾や習い事を移動手段の不足によって諦めることがないよう、このようなサービスが欲しい。

利用者

B さん



今はまだ自身で運転するが、**いずれ免許を返納した際にこのようなサービスがあれば非常に安心して暮らせると感じた。**
地区跨ぎの移動も非常に楽で、このようなサービスがあれば外出意欲は高まると感じた。

ドライバー

C さん



このサービスをきっかけに、**6年ぶりに温泉に出かけられる方を乗せて非常にやりがいを感じた。**ご乗客の方から、雑談で自分の知らない町の昔話等を聞くことができ、自身も楽しく運転が行えた。

ドライバー

D さん



地域交通に元々大きな課題やリスクを感じていた。**仮にお金に変わらなくとも地域を支えるためにドライバーとして稼働したい思いがあり参加した。**今後も同じような取り組みがあれば是非参加したい。

実証実験の評価

実施期間 2025年3月10日～2025年3月21日

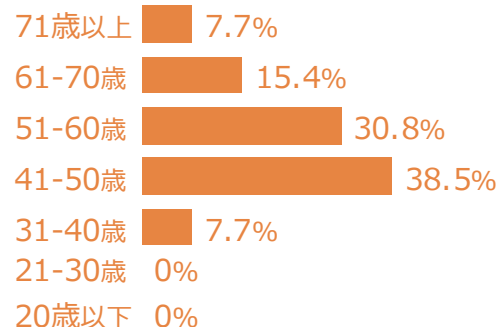
運行区間 多気町せいわ地区および松阪市周辺

ドライバー数



募集期間：11月22日～12月8日
運転講習会：12月15、16日で実施

ドライバー年代割合



総運行回数 ※運行した回数

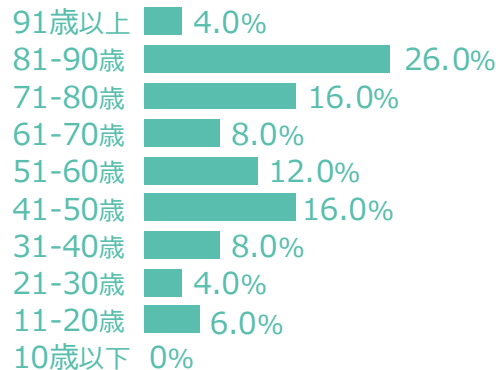


申込者数

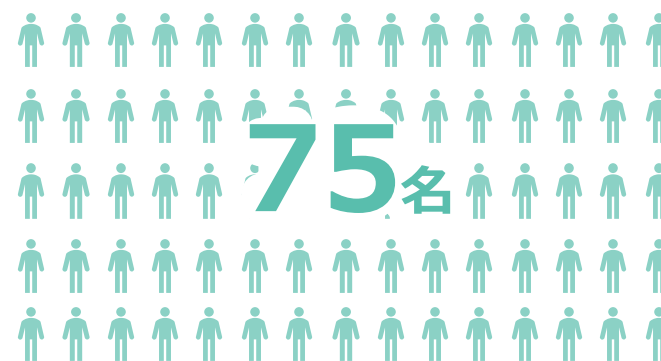


募集期間：11月22日～2月9日

利用者年代割合



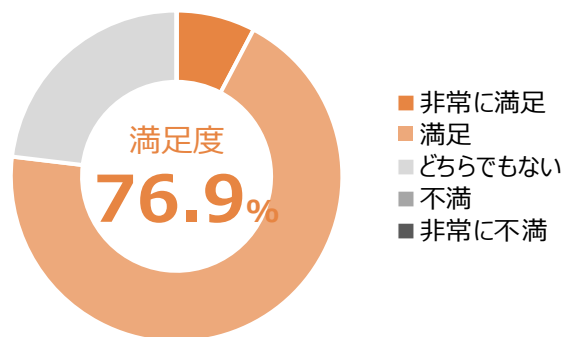
総利用者数 ※せいわごんに乗った回数



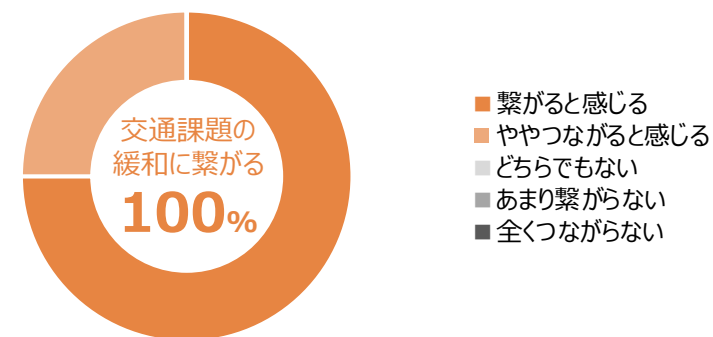
ドライバーは76.9%と高い満足度を獲得するとともに、不満の回答は0%であった。

地域交通緩和への効果は非常に高い評価を得る結果となり、**ドライバー全員がサービスを通じて多気町の交通課題に対する効果を実感する形となった。**また、参加後に「感謝されることで元気をもらえる」「人の役に立てることが嬉しい」などのコメントが多く、**住民同士の相互支援の仕組みであることが確認**できた。

最終的なせいわごん満足度



せいわごんのようなサービスが実用化された場合、現在感じられている地域の交通課題の緩和に繋がると感じますか？



ドライバー

E さん

行き先の病院は駐車場から出入口までが遠く、足が痛い利用者には辛い施設であるが、自宅の玄関から病院の入口までお送りできることで利用者さんが喜んでおり何度も感謝された。**「感謝の言葉」「お礼」を言っていただくことが何よりも嬉しかった。**



ドライバー

F さん

生きていくうえで**「共助」は必須と考えている。**今回一定のルールや仕組みの下で、相手への配慮をしながらも気を遣わずに送迎してもらえるサービスの実証実験に参画できたことは良かった。

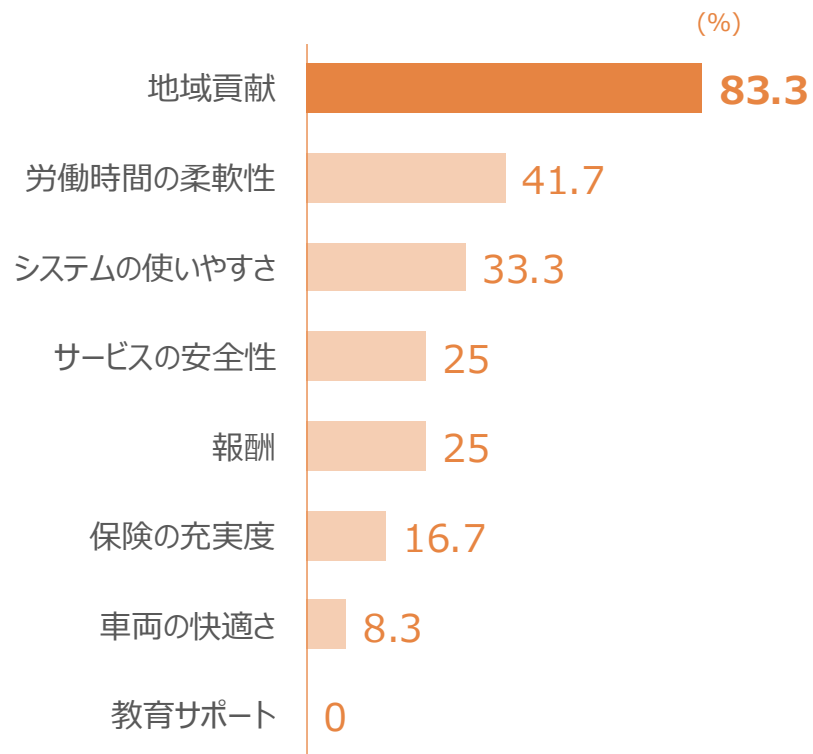
実証実験の評価

ドライバー

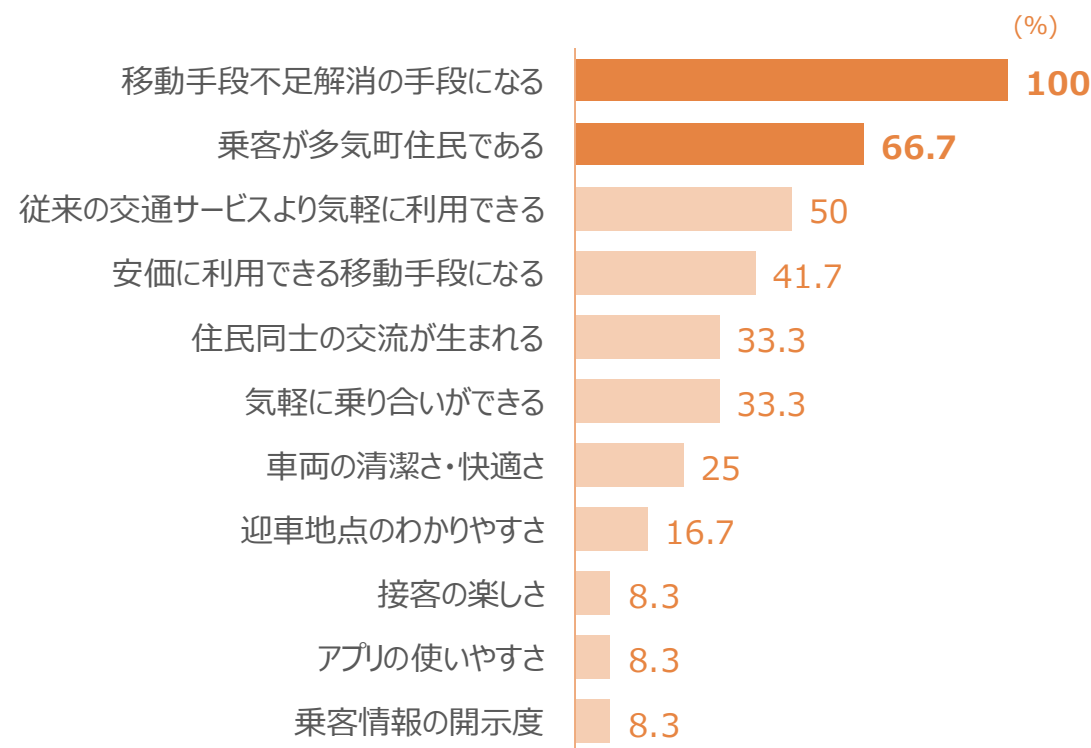
利用者

ドライバーとしての活動において、**83.3%が地域貢献を重要視**しており、全員が「移動手段不足の解消となる」と回答した。
実証実験の良かった点として「乗客が多気町民である」があがっており、**本人認証の仕組みや共助の必要性が参加モチベーションに作用**する形となった。

サービス提供体験を通じて、
改めて現時点で重要視される事項



せいぜいごんの良かったと思う点、
または今後も続けるべきだと思う点



実証実験の評価

ドライバー

利用者

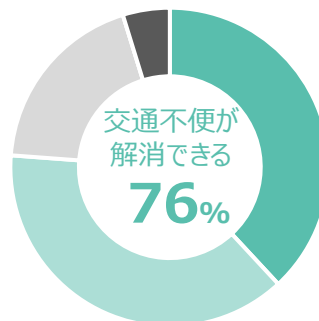
利用体験を通じて**全員が満足以上の回答**。乗車中のコミュニケーションが好評となり、サービス継続を求める声が多数寄せられる状態で実証実験を終えた。移動手段不足の打ち手として高い期待を寄せられるとともに、**地域の交流活性化へも高い効果を見込む声が多く**、移動手段以上の取り組みになり得ると評価された。

最終的なせいwagon満足度



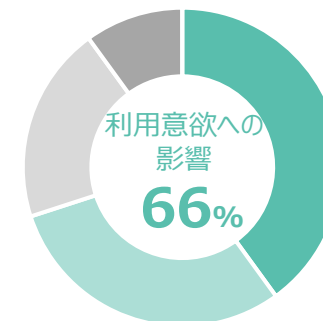
- 非常に満足
- 満足
- どちらでもない
- 不満
- 非常に不満

せいwagonサービスによって、 現状の交通に関する不便が解消できるか



- 大幅に解消できる
- やや解消できる
- どちらでもない
- あまりあまり解消できない
- ほとんど解消できない

サービス利用にあたって、多気町民同士の共助 サービスである点が利用意欲に影響しましたか？



- 影響があった
- やや影響があった
- どちらでもない
- あまり気にしなかった
- 全く気にしなかった



利用者

G さん

普段よく送迎してくれている母の都合や体調で送迎が難しい時に利用したい。自宅が遠い友達とも心置きなく会えるようになり、カラオケなどの娯楽にも気軽に行けるようになるので毎日の生活が楽しくなる。



利用者

H さん

家族による送迎が「あたりまえ」「義務」となっている地域で、1人1人が家族単位の拘束から解放される効果がある。このことにより定住の促進や首都圏への人口流出の防止などの効果が期待できると感じる。

実証実験の評価

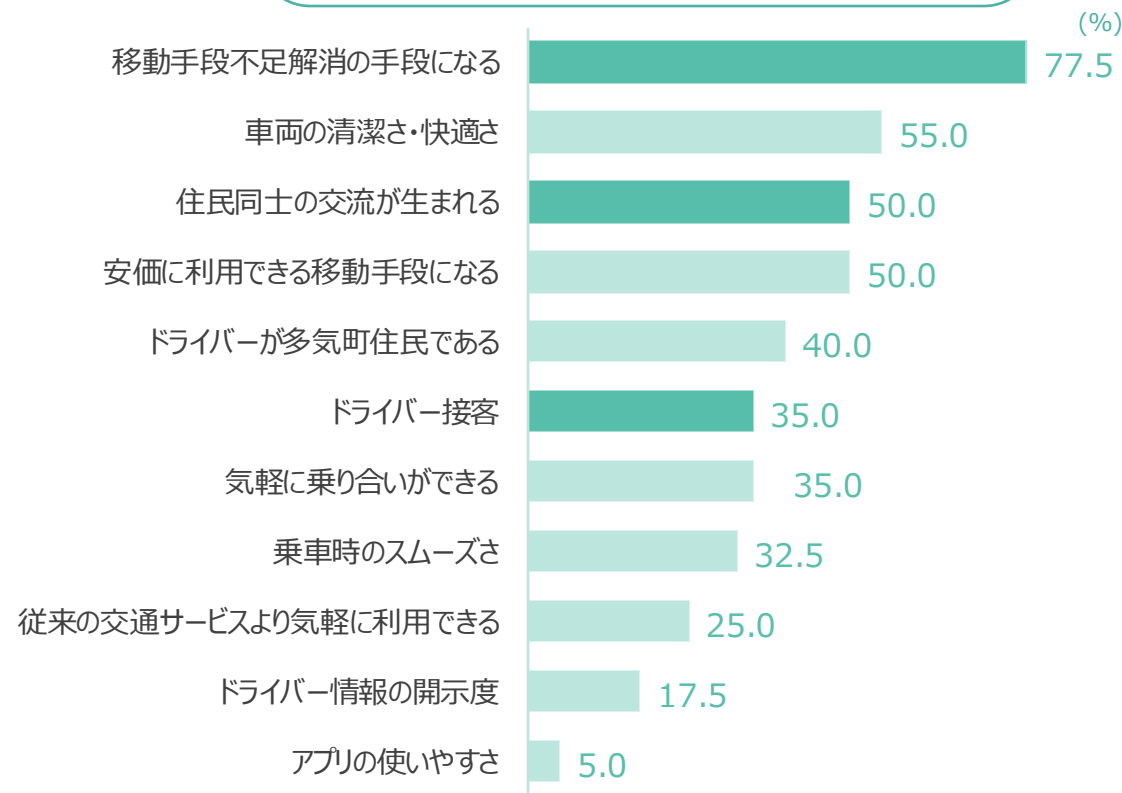
ドライバー

利用者

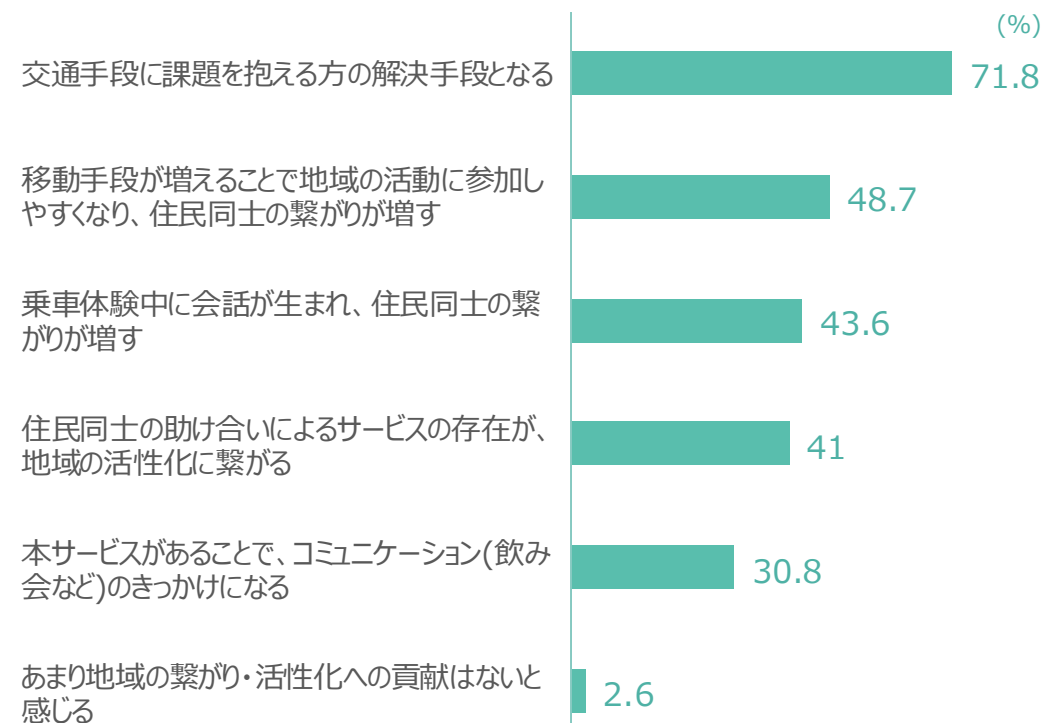
利用者は、移動手段不足の解消(77.5%)ニーズが最も高く、日常的な課題感が利用意向に直結する形となった。

交通手段に課題を抱える方の解決手段の回答が割合としては最も大きいですが、**地域活性化・コミュニケーション促進のいずれか、または両方を回答した方の割合が90%**となり、共助型ライドシェアサービスが単なる移動手段ではなく、多気町における地域活性化に寄与しうることを実証実験を通じて実感いただける結果となった。

せいわごんの良かったと思う点、
または今後も続けるべきだと思う点



せいわごんサービスが、地域の活性化に
貢献可能なサービスになり得るか



実証実験の評価

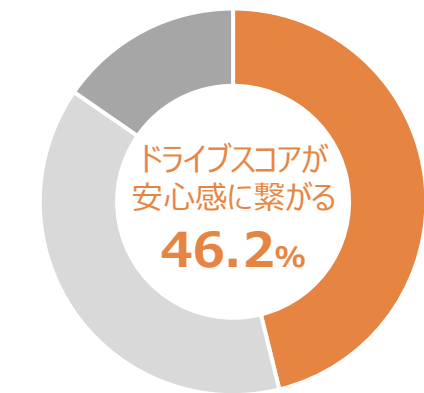
ドライバー

利用者

本実証実験では、ドライバー・利用者が多気町民であることが仕組み上保証されているサービスであり、その点が安心感醸成に寄与している。一方で、ドライバー・利用者からは多気町民であること以上の情報を求める声も挙がっており、本実証実験において取得していたドライブスコアについても、特に**利用者からは約80%の支持**が寄せられた。特に、相対的に若い**50代以下の世代からはドライブスコアやレビュースコア等の定量的な評価への需要が高い**。一方、ドライバーからはスコア化されることによって心理的安全性が損なわれる点は懸念として挙がっており、取得情報と開示情報のバランスが重要となる。

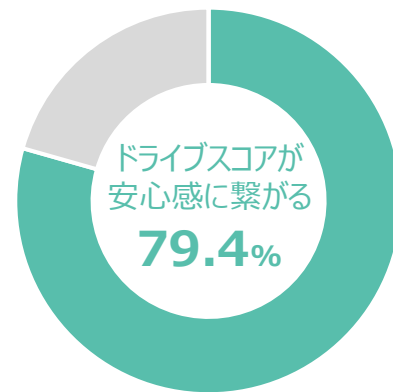
【ドライバー向け質問】

Q. 予約画面上でドライバーのドライブスコアが確認可能であった場合、利用者にとって安心感のあるサービスになると感じますか？



- 安心して利用してもらえる材料になると感じる
- どちらでも構わない
- 懸念がある

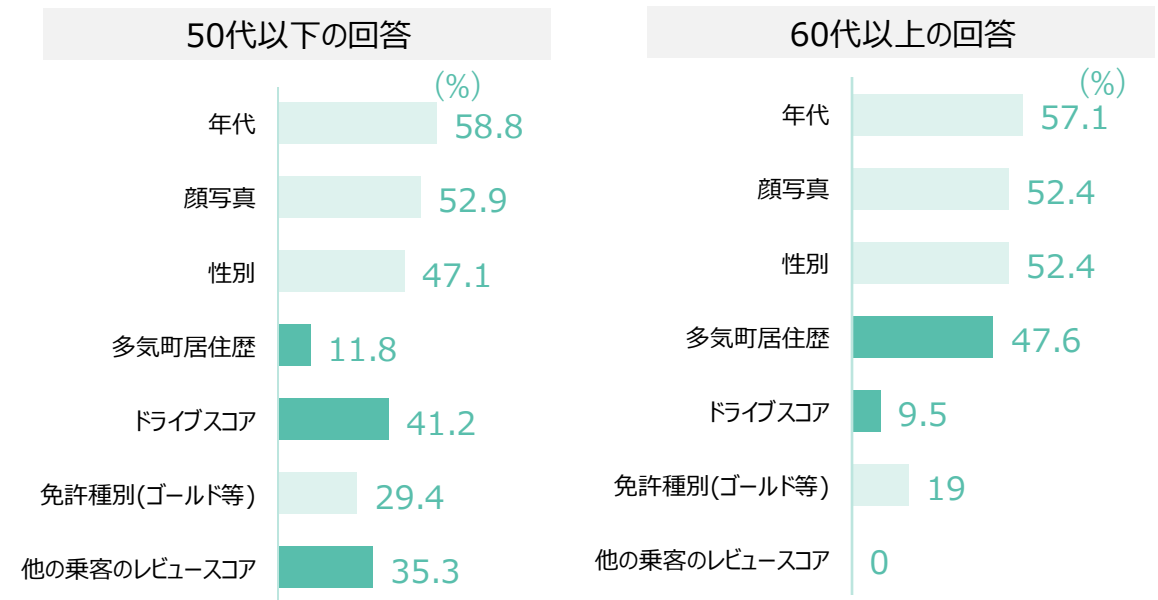
Q. 予約画面上でドライバーのドライブスコアが参照可能であった場合、サービス利用の更なる安心感に繋がりますか？



- 安心感が増し、利用意向に繋がる
- 変わらないと思う
- 安心感が下がる

【利用者向け質問】

Q. 乗車予約時、ドライバーの基本情報として開示されていると安心できる項目をお知らせください



多気町実証実験 エグゼクティブサマリー

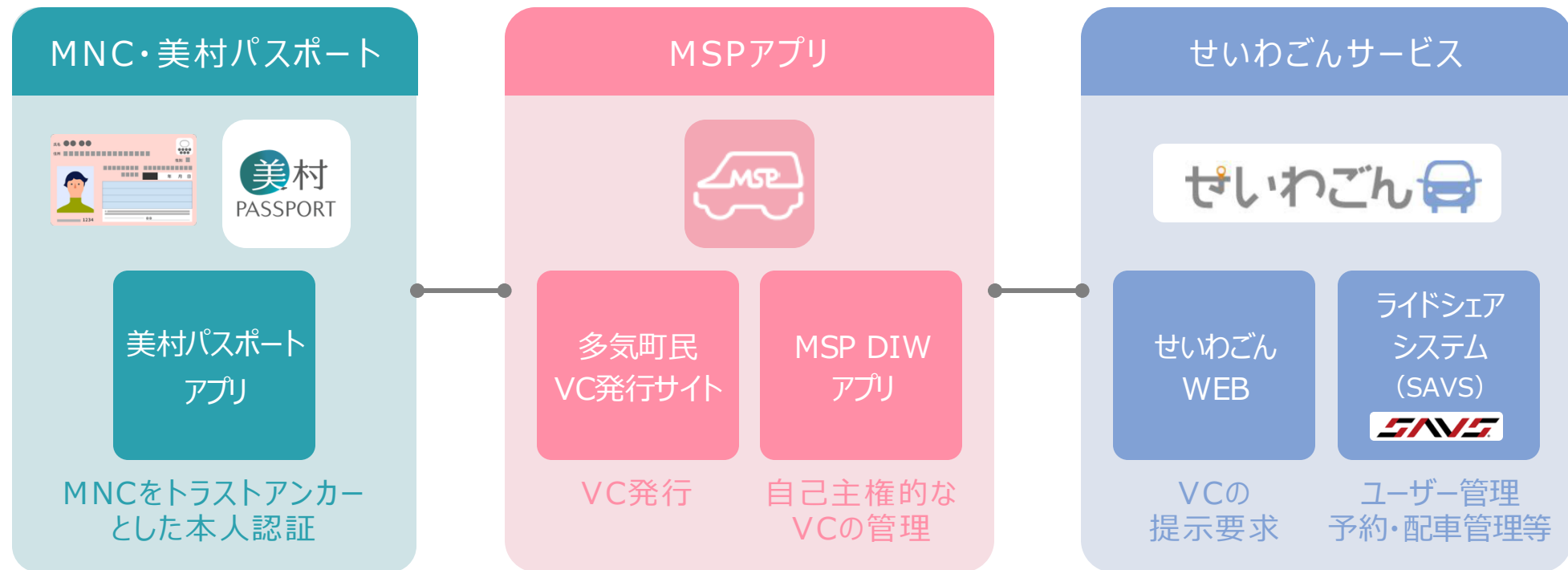
MSPの評価

MSPの要素 ①

正確な本人認証

美村アプリ+MNCとの連携

「MNC・美村パスポート」をトラストアンカーとして、「MSPアプリ」をVC（Verifiable Credential）管理基盤として活用し、ライドシェアの仕組みに「せいわごんサービス（SAVS）」を利用し、共助型ライドシェアサービスを実現した。サービス利用者が多気町民であることを仕組み上で担保されたサービスとすることで、ドライバー・利用者の安心感醸成を図り、サービス利用意向・継続利用のモチベーションに繋がり得るかを確認した。



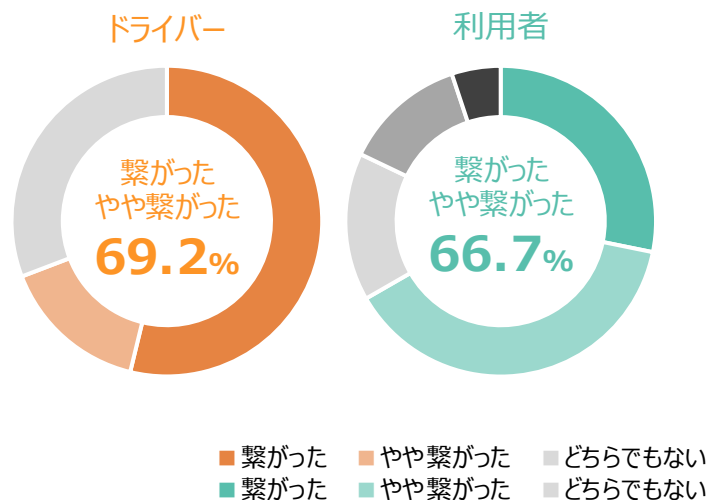
MSPの要素 ①

正確な本人認証

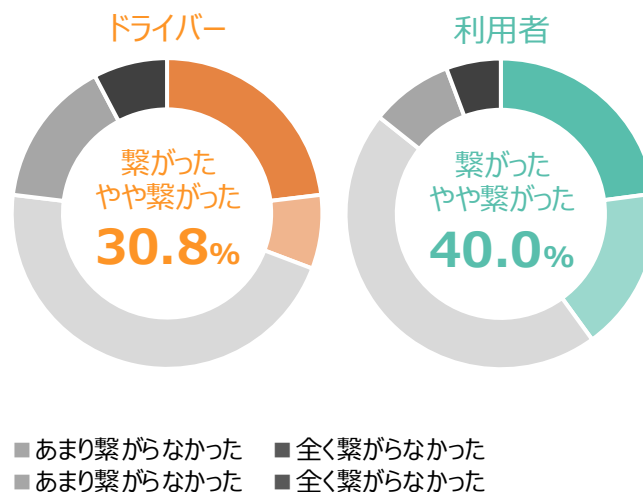
美村アプリ+MNCとの連携

参加者が同じ町民である点、それを保証するMNC認証の有効性を確認した。一方で、**安心感醸成のために町民であること以上の情報**(運転技術を示すスコア、口コミ、居住歴等)を必要とする声も挙がり、トラストアンカーとして保持・開示する情報粒度は改善検討の余地がある。

Q. 乗客が多気町住民であることが保証されている点が、サービス利用の安心感に繋がりましたか？



Q. マイナンバーカードを用いている点が、サービス利用の安心感に繋がりましたか？



マイナンバーによる認証のみでなく、**評価者の主観に左右されないような信頼に足る情報**があると安心に繋がると感じる。



今回は4回ともドライバーが知っている人で安心できた。仮に知らない人であっても地元の人であれば年代や性別に関わらず不安は無い。運転技術については**過去の事故歴・違反歴の確認や講習の受講等をドライバーの登録条件**にすると良いと思う。

多気町実証実験 エグゼクティブサマリー

MSPの評価

MSPの要素 ②

ヒトとクルマをN対Nで繋ぐ

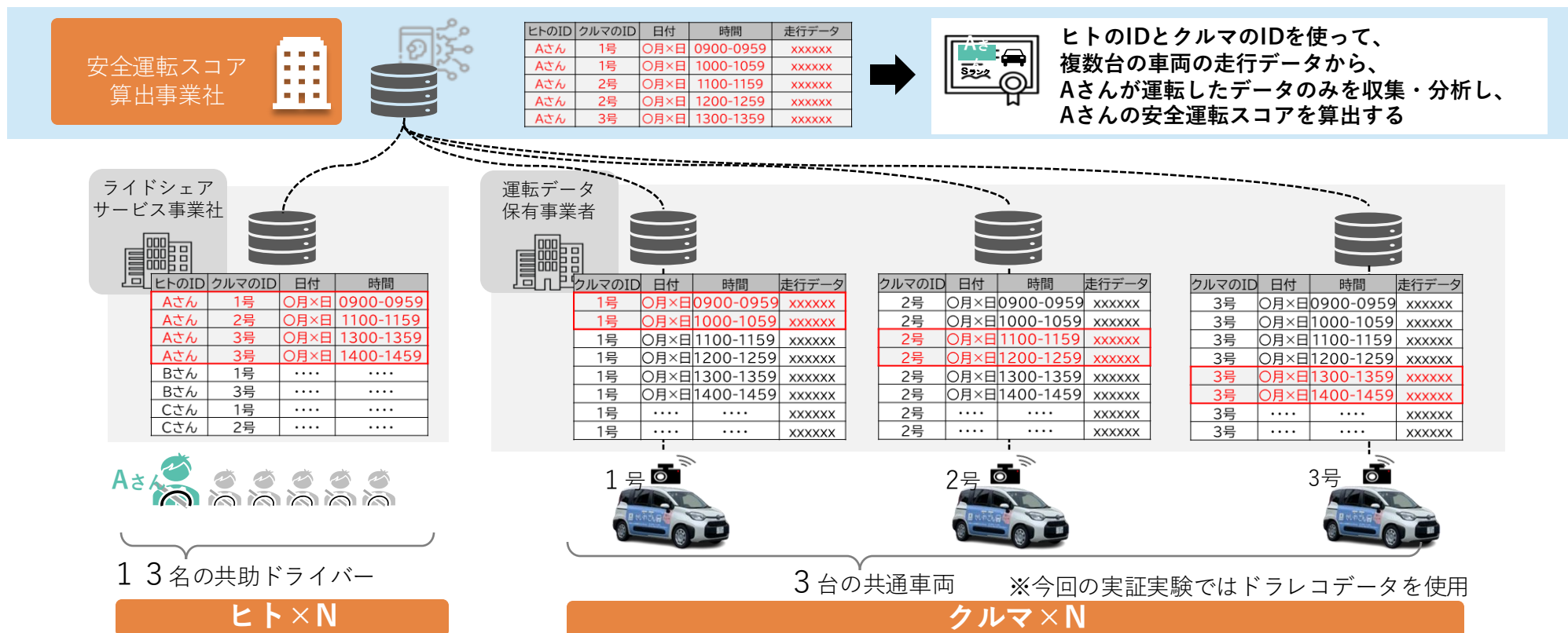
住民ドライバーによるライドシェア

MSPの要素 ③

企業・産業を跨いだデータ連携

ドラレコで取得する運転スコア連携

事業者を跨いだデータ連携により、ヒトとクルマをN対Nで繋ぐことで、利用時の安心感醸成や事後のサービス品質向上施策に活用可能な仕組みを構築した。本実証実験においては、**ドライブレコーダーから取得されたドライブスコアと、利用者から取得した乗車直後・実証実験後のアンケートを突合**することで、クルマのデータとサービス利用者のデータを掛け合わせた分析を行った。



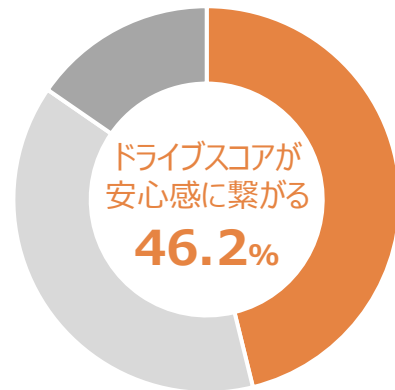
MSPの要素 ②
ヒトとクルマをN対Nで繋ぐ
住民ドライバーによるライドシェア

MSPの要素 ③
企業・産業を跨いだデータ連携
ドラレコで取得する運転スコア連携

利用者における、ドライブスコアによる安心感醸成については、**肯定的意見が79.4%**となった。中でも、若者層は主観の入るクチコミ等ではなく、合理性の高いドラレコスコア重視の傾向が見られた。一方、**ドライバー側は肯定意見が46.2%、懸念が15.4%**挙げられた。情報取得の必要性には賛同意見が寄せられたが、開示される情報によってはドライバーの心理的安全性が損なわれる可能性があるため、開示情報と運営側でのみ確認する情報の区分けが重要となる。

【ドライバー向け質問】

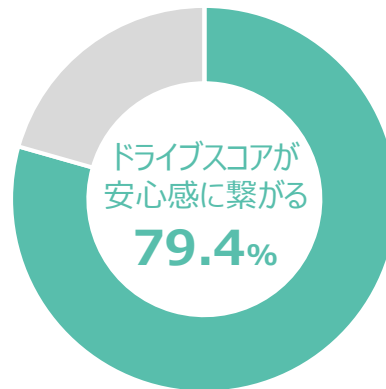
Q. 予約画面上でドライバーのドライブスコアが確認可能であった場合、利用者にとって安心感のあるサービスになると感じますか？



- 安心して利用してもらえる材料になると感じる
- どちらでも構わない
- 懸念がある

【利用者向け質問】

Q. 予約画面上でドライバーのドライブスコアが参照可能であった場合、サービス利用の更なる安心感に繋がりますか？



- 安心感が増し、利用意向に繋がる
- 変わらないと思う
- 安心感が下がる



50代女性
ドライバー

利用者目線では安心に繋がる指標に思えるが、ドライバーとしては自身の**運転技術が評価されることへの心理的負担**が生じてしまう懸念もある。



10代女性
利用者

母はドライバーに関してはもらい事故も含め、事故が心配であると感じている様子だった。**ドライブレコーダーのデータなど、客観データが確認できると安心感が向上する**と言っていた。

多気町実証実験 エグゼクティブサマリー

実証実験の評価

MSP構想における中核概念の実践

- 事業者を跨いだデータ連携により、利用時の安心感醸成や事後のサービス品質向上施策に活用可能な仕組みを構築した。
- 利用者の声とドライブスコアを掛け合わせることでサービスの評価を実施。高い満足度の裏付けとして、**全国平均(83.8%)を大幅に上回る共助ドライバーのドライブスコア(91.2%)の確認**を行えた。

MSP構想における「うれしさ」のカタチ化

- MSP構想におけるモビリティの先行ユースケースを確立。参加者が同じ町民である点、それを保証するMNC認証の有効性を確認した。
- 一方で、安心感醸成のために町民であること以上の情報を必要とする声も挙がり、トラストアンカーとして**保持・開示する情報粒度は改善検討の余地**がある。

今後に向けた課題・論点

- VCによる本人認証および産業を跨ぐ情報連携によって、**交通空白地帯へのモビリティサービス導入ハードルを下げる効果**をもたらす可能性がある。
- 連携する事業者、提供可能な情報によって効果は変動するため、ビジネス価値と利用者ニーズ双方の観点から将来像の検討・設計を行うことが重要となる。

多気町実証実験 エグゼクティブサマリー

実証実験の評価

ドライバー

- 地域貢献意欲の高い方が集まり、乗客とのコミュニケーションを通じてやりがいや楽しさを見出していただくきっかけとなった。
- 「将来的に自身が運転できなくなった際のために、今は自分が助ける側に回りたい」という、**地域交通への課題感と参加モチベーションが一体**である方が複数存在し、将来の交通事情への不安と、新たな取り組みへの期待感が伺えた。
- 報酬面に対する期待も一定存在し、サービスを持続性のある事業にする際には課題となりうる。

利用者

- 「サービス利用前は不安もあったが、実際に利用してみると非常に楽しく、また利用したいと感じた」という意見が非常に多く、**町民同士のコミュニケーションがサービス利用のモチベーションに大きく作用**することが伺えた。
- **地区を跨ぐ移動への課題感**を持った方が複数存在し、本サービスご利用において非常に満足いただけた一要素となった。
- 有償化した際には、利用用途・年齢層・所得などによって負担を検討してほしい旨の意見が多く、制度設計における課題となりうる。

今後の展望

- サービス継続を求める声が非常に多く寄せられ、**交通課題への打ち手に対する強い期待**が存在する。
- サービスに対しては高い評価を得た一方、**ITリテラシー起因のアプリ導入率**(3-4章参照)、および継続化に必須の**収益性**(5章参照)については課題が残る。
- **ドアtoドアの移動**が可能となる点のほか、地区を跨いでの移動への需要も強く存在する。収益性の観点からも、サービス化検討の際には需要供給バランスの取れたスコープ設計、および周辺自治体との協力検討が必要になると考えられる。